

まんさく

二〇〇九年度「学生交流会」
開催される

学友会執行部会長 清水舞衣

今年の学生交流会は学内で「餅つき」をしました。学科を越えて交流する機会があまりないため、友人の輪を広げるきっかけになればと思い、知恵を出し合って計画しました。また、幼児教育学科や地域福祉学科では授業の一環として「餅つき」を体験できますが、看護学科は授業に組み込まれていないため、良い機会であると考えました。

初めての試みで不安な面もありましたが、参加して下さった先生方や一年生の楽しんでいる様子を見て安心することができました。また、協力して下さった地域の方々のご指導により、一回目、二回目とどんどんおいしいお餅になっていました。つき立てのお餅はとてもおいしく、それをおいしそうに食べている学生の笑顔を見てとてもうれしくなりました。

イベントの企画・運営をすることはとても大変な事でしたが、沢山の人の喜んでいただけことがとてもうれしく、無事に終えることができました。また次回も皆さんに楽しんでいただけるよう、頑張りたいです。



発行 新見公立短期大学（岡山県新見市西方二二六三の二） ☎〇八六七―七二―〇六三四

編集 学報編集委員会

第十一回

鳴滝祭開催される

鳴滝祭実行委員長 佐藤ちなつ

五月九・十日の二日間にわたり、第十一回鳴滝祭が開催されました。おかげさまで二日間とも晴天にめぐまれ、気持ちの良い天候のもとで開催することができました。「いい日々 いい友 いい笑顔 なるたきイレブン 一キブン♪」が今年の方々の先生方、遠方からご来場下さった方々やご卒業された先輩方など、たくさんの方々の笑顔を見ることができ、楽しんでいただけたのではないかと思います。

今年は一日目に一番の目玉であるプロコンサートがあり、第一部で「Jaaたけや」のお笑いライブ、第二部で「椿姫彩葉」のトークショーがありました。今までのお笑いライブから一転してのトークショーだったので不安部分が大きかったのですが、チケットの売れ行きも好調で大反響を得ました。他にも、カラオケ、ミスター&ミス新短を決めるミスコンなどの企画も盛り上がりを見せました。二日目は、新見ウインドアンサンブル、岡山連盟大学合同企画によるギャップコンテスト、豪華商品をかけたビンゴ大会などが行われ、多くの方に楽しんでいただけました。また二日間にわたり、チャリティーバザーや学友会・各学科・部

活動による模擬店や展示も素晴らしい賑わいを見せました。

今回は、百四十人もの実行委員が各部長を先頭に準備をしてみました。各学科が協力して一つのものを作り上げていく機会はありませんので、他学科との仲を深める良い機会になったのではないのでしょうか。毎日遅くまで残って準備をしていた実行委員のみんな、お疲れ様でした。特に各部長は責任が重くプレッシャーが大きいにも関わらず、頼りない私を支えてくれ、最高の友の存在を感じました。たくさんの方々の協力のおかげで無事に鳴滝祭を終えることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の鳴滝祭を行うにあたって、地域の方々、教職員の方々、講演会の皆様、他大学の方々など、多くの方のご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございます。来年の第十二回鳴滝祭の成功を願っています。



学生自主企画講演会を終えて

講演会実行委員会長 石川陽平

昨年秋頃、先輩たちが発足した学生講演会実行委員会を受け継ぎ、第二回目の講演会に向けて準備を進め



ていくことになりました。講演会開催当日まで苦勞も多かったですが、メンバーの皆で作業を分担し力を合わせて取り組みました。

今回は、きのこエスポアール病院（岡山県笠岡市）院長の佐々木健先生を講師としてお招きし、「認知症の人を支えるためにくその理解とケア」と題して講演していただきました。認知症ケアの第一人者である佐々木先生のお話はとてもわかりやすく、介護福祉を学ぶ学生たちにとっても大変良い勉強になりました。また、講演会に参加してくださった地域の方々にも認知症についてよく理解していただけたと思います。当日は、多くの方に来場していただき、無事講演会を終了することができました。今回や前回の講演会を通して、地域全体で認知症の人を支えていけるよう、まちづくりの一助となっていれば大変うれしく思います。



地域看護学専攻科

第五期生 保健師国家試験全員合格

担任 矢庭さゆり

全員合格おめでとうございます。十六名の学生は、保健師になりましたという強い意志を持って一年間学びを深め、自分の夢に向かって再びスタートを切りました。今年も十六名の学生を迎えました。



伊藤 瞳

岡山県内にある五年一貫の高校を卒業して、本学に入学しました。入学以前は、看護学校で五年間共に支えあってきた友人と別れ、新しい仲間と新しい環境で一人暮らしを始めるといふ新生活に漠然とした不安を抱えていました。入学から早一カ月が経った今、クラスには皆の笑顔が飛び交い、明るく楽しい大学生活を送っています。年齢、出身地、臨床経験の有無等が異なっているため、グループ学習では自分のもっていないいろいろな視点での意見を聞くことができます。そして、相手の意見を尊重し、認め合うことで個々の特性を活かすお互いに影響を受け、幅広い視野で学ぶことができるようになりました。これからはさまざまな実習を控えており、次々に課題と



高橋 園子

共に緊張も膨らむ一方で、「皆で協力しあい頑張ろう」と声を掛け合い、それぞれの思い描く将来、夢の実現に向けてクラス一丸となって、ともに頑張っていきたいと思えます。

看護学校を卒業して十五年が経ちます。その間、病院での勤務、子育て、産業保健看護と色々な経験をしました。特に産業保健の仕事はやりがいもあり、仕事が楽しくなればなるほど、もう一度勉強がしたい、保健師になりたいと思うようになりました。そのような願いが叶って、今こうして勉強ができる毎日に感謝でいっぱいです。多くの経験をした上で受ける講義はとても新鮮で、勉強している内容が社会に出てどのよう役に立つかということもわかるので、一日一日を大切に感じています。十六名という少人数の恵まれた環境の中、自分がいろいろと経験してきたことは皆で共有し、若い皆にパワーをもらい、できるだけ皆についていく！ そのような大学生活が送れるとうれしいです。一年間の課題が多い専攻科は、苦しい時は助け合い、楽しいときは分かち合う、そんな素敵なクラスです。このカリキュラムを乗り越えた一年後の皆が、そして自分が楽しみです。

地域福祉学科

★G P行事の一環として、新見市高瀬地区に「草とりボランティア」に一年生八名が参加し、地域の高齢者たちと交流を深めました。その感想を榎本さんが寄せてくれました。

草とりボランティアに参加して

一年次生 榎本梨佐

草取りボランティアで、私が行かせていただいたのは、お花の好きなおばあさんのお宅でした。庭にはさまざまで色とりどりの花が咲いていました。

私は自宅で草とりをしたことがなかったのですが、最初は小さな花の芽と雑草の見分けがつきませんでした。一つの草をとると終わると、次はどの草をとればよいか、また花はどれなのか……一つ一つ聞いていました。おばあさんはその都度、優しく、時にはうれしそうな表情で丁寧に教えてくださいました。一時間程度経った頃、庭にあった雑草はなくなり、植えられている花が一段と生き生きとして見えました。この時、ふと自宅の庭で祖母が毎日草とりをしている光景を思い出しました。祖母のお陰で、庭の花たちは生き生きとしているのだ……祖母に感謝！

草は毎日とらなければ、すぐに増えてしまうそうです。このボランティアに参加し、毎日の積み重ねが大切だと改めて感じることができました。



新任教員挨拶「はじめまして」

教授 久保田トミ子



四月から地域福祉学科教員に就任した久保田トミ子です。担当する科目は、「介護概論」、「介護過程」、「実習指導」、「介護実習」などです。三月までは、山口県の短期大学や四年制大学で介護福祉教育に携わっていました。縁あって新見の地に移り住むようになり、日々新たな発見がありわくわくしています。自然が豊かで体育館の裏山で鷺が巣をつくって飛来する鷺の姿に見えたり、鷺の澄んだ鳴き声に心洗われる思いがしています。

全国的には介護福祉士養成校の定員割れが激しい中で、新見短大では、北は北海道から南は九州まで全国から介護福祉士を目指す学生が、今年

は五十五名も入学しています。素朴で真面目な学生たちの授業態度にも感心しています。脈々と受け継がれている学風を肌で感じ、新たな気持ちで介護福祉教育に関われることに喜びを抱いています。卒業生の皆さんにお目にかかれる機会を楽しみにしています。

母校自慢

第10回

*北海道立旭川商業高等学校

北海道で一位の学校

一年次生 北谷章后

私が通っていた旭川商業高校は、勉強だけでなく、生徒に様々な学びを与えてくれる学校です。

特に商業高校の特性を活かしたインターシップでは、自分の行きたい職業を経験する授業がありました。私は老人ホームなどへ行き、実際の介護福祉の楽しさや難しさを体験することができ、この体験から福祉に関する視野が広がり、また今に繋がっているとっています。

他の特徴として、商業高校ならではの検定にも取り組んでおり、一級三種目の取得を目指して勉強をしています。昨年、旭川商業高校は北海道で一位となり、また全国でも十位以内という好成绩をおさめました。

高校生活で、貴重な経験をたくさんさせてくれた旭川商業高校は、私の自慢の母校です！

*広島県立総合技術高等学校

専門的な知識・技術を学べます！

一年次生 米村麻実子

私が通っていた総合技術高等学校は六つの科があり、私は人間福祉科に所属していました。

人間福祉科では、ホームヘルパーの資格を取得することができ、他にも家庭技術検定やサービスマスク検定など多くの検定に挑戦することができました。先生方が親身になって教えてくださったので、私もさまざまな資格を取得することができました。また、年二回、地域の高齢者方を招いて交流する「総高わくわくサロン」というのがあります。自分たちの考えたレクリエーションを行ったり、会話を楽しんだりします。この行事のおかげで実践力が身につく、コミュニケーション能力を養うことができました。

私の母校は野球部がとても強いですが、今年こそ甲子園に行つて欲しい……そう願っています。

同じ目標を持った仲間たちと楽しく学べる総合技術高等学校は、私の自慢の母校です。



絵・大本明日香

幼児教育学科

「こどもフェスタ」を終えて

二年次生 門脇朱里

幼児教育学科では、昨年度の二月にまなび広場にいみにて「にいみこどもフェスタ」を行いました。

一年生だった私たちは、劇「かもとりごんべえ」と音楽物語「晴れたらいいな」の発表に向けて、日々練習に取り組みました。



劇「かもとりごんべえ」では、出演者、音響担当者、舞台美術担当者に分かれて制作に当たり、私は、舞台美術を担当しました。初めは舞台の広さも想像できず、そのような中

での大道具や小道具の制作は大変でしたが、先生方の指導や助言をいただきながら、また、舞台美術のみならず協力しながら作業を進めていきました。出演者はお互いに意見を出し合いながら自主練習を行ったり、音響担当者は音楽が合うように何度も作り直したり、演技、音響、舞台美術を合わせた練習も重ね、より良い作品を作りたいという想いで、本番に向けて努力をしてきました。当日は、たくさんのお客さんが足を運んでフェスタを楽しんでくださり、私たち自身も楽しんで行うことができました。こうして無事にこどもフェスタを終えることができたのも、まなび広場にいみのスタッフの皆さん、先輩方、先生方、地域の方々の支えがあったからこそだと思います。このフェスタを通して様々な貴重な体験ができ、多くのものを得ることができました。これら在今后的学びに生かしていきたいと思えます。



絵・稲垣実穂

幼児教育学科に入学して

一年次生 下村洋平



絵・羽原由記

慣れ親しんだ地元を離れ、高校までとはまるで違う形で授業を受け、新見で経験することすべてが初めてのことでしたが、段々と新見での短大生活にも慣れてきました。入学当初は人間関係や勉強面などあらゆる面で不安でしたが学園祭や学生交流会やサークル活動などで学科や学年を問わずたくさんの人と親しくなることができました。

学科交流会では先輩方が「こどもフェスタ」でされた「かもとりごんべえ」の劇を見せていただきました。舞台上の先輩方は皆堂々とそれぞれの役を演じられていました。また、本格的だった大道具、小道具も全て手作りだったことには驚かされました。それと同時に自分たちも同じように素晴らしい物ができるだろうかという不安も感じました。

しかし不安がっているだけでは先へは進めません。今自分たちができることは毎日の授業をしっかりと受け、

有意義に生活していくことだと思います。そうして切磋琢磨を日々続け、社会に出ても恥ずかしくない人間に近づけるよう努力していきたいと思っています。

新任教員挨拶「はじめまして」

助教 大久保淳子



四月から幼児教育学科に着任致しました。担当科目は、「言葉指導法」・「人間関係指導法」・「保育方法論」・「保育課程総論」などです。講義では、幼稚園教諭としての子どもたちとのエピソードや児童相談所で心理判定員として関わった障がいのある子どもたち、家庭環境に恵まれない子どもたちとの関わりについても触れ、すすめていきます。私の現場での経験が皆さんの役に立つような講義を心がけたいと思います。また、着任して感じましたことは、学生の方々の礼儀正さです。学内ではもちろん、学外においてもさわやかな笑顔と挨拶がかえってきます。このような学生の皆様方の良い面を大切にしながら勉学を支え、自分自身も研究に取り組みたいと思います。皆様方の学生生活が、すばらしいかけがえのない思い出となりますように温かく、時には厳しく見守りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

看護学科

新任教員挨拶「はじめまして」



講師 木下照子

四月からの通勤も今では不安なくできるようになりました。心身ともに満杯に深呼吸しなさいといわれているような新見の地で、念願の通り母性看護学を担当させていただいております。短大では落ち着いた学習環境の中にも、先生方や学生の皆さんの様子を垣間見て、質の高い教育がなされていることを熱く感じております。今までの経験で、学生の限らない可能性を秘めた能力や魅力に触れ、環境により人は変化して育つことを確信しております。また、学生・教員関係も、それぞれが自分の課題に向き合って成長していく相互作用の世界であると考えます。学生とともにお互いの変化と成長発展を期待しつつ、微力ながら努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。



講師 矢嶋裕樹

四月より本学に着任いたしました。専門は疫学・医療保健統計学です。これまで岡山県内のいくつかの看護

系大学、短大、専門学校で非常勤講師として疫学や保健・医療統計学を担当してまいりました。また、共同研究者として多くの現職の看護師、保健師の方々の研究に携わってまいりました。残念なことに、医療・保健統計学に対する学生のイメージは「難しくとつきにくい」というものです。患者さんの臨床的な症状や性格特性、心理状態などを何らかの方法で測定し、数値データとして取り扱うことをいいますが、そうすることに對して強い違和感や抵抗感を覚える方がおられます。また、まだ浅学の身であります。医療・保健統計学がこれから保健・看護に携わる皆様にとつて身近で親しみやすく役立つ学問・方法論であることに気づいていただけると、日々努力していく所存です。どうぞよろしくお願いたします。

祝 三年連続

看護師国家試験全員合格！

二十七期生担任 土井英子

第九十八回看護師国家試験が平成二十一年二月二十二日に実施されました。

一月からは国家試験対策委員の学生が中心となり、国家試験問題を毎日教室に集まって学習しました。学術交流センター(図書館)では、土曜日や日曜日も開館していたため朝から一日中学習する環境も整えられていました。全国模擬試験では五一三校中十二位になりました。平成二十一年三月二十六日に合格

発表があり、全体では八九・九%、三年課程短期大学は九二%でしたが、二十七期生は見事全員合格でした。さらに三年連続全員合格でした。おめでとう！

看護学科は四年制大学へ

古城幸子

現在、平成二十二年度開設を目指して、文部科学省へ新見公立大学看護学部設置の申請中です。今年度の入学生を最後に、三十年間の歴史は塗り替えられます。

昨年夏にアンケート調査を行った卒業生の意見も、約九十%の方が四大化に賛成と答えていただきました。



質の高い看護専門職を育てるためには、三年間の看護師教育、一年間の保健師教育という過密なスケジュールではなく、四年間の継続した教育課程の中で看護を深く学ぶこ

とは、社会のニーズだと考えます。短大の教育で積み重ねてきた風土は、これからも同様です。学生と教師の距離の近さや、大学全体の家庭的な雰囲気は変わることはありません。看護専門職への明確な意識を持つて社会貢献できる人材を送り出すために、そして、新見での看護教育がより発展するために、教員一同、一層努力していきたいと思っています。

看護教育カリキュラム改正について

杉本幸枝

平成二十一年度入学生から看護教育カリキュラムの改正が行われました。これは、看護を取り巻く環境の変化に伴い、より重要性が増している教育内容の充実を図ることで、学生の看護実践能力を強化することを目的としています。具体的には、すべての看護実践の基盤となる内容を強調して学ぶことができるように、基礎看護学を「専門分野I」と位置づけました。さらに、臨床実践に近い形で学習し知識・技術を統合させるための「統合分野」を新たに設け、「地域看護学」「看護の統合と実践」を内容としています。「看護の統合と実践」は、「看護管理」「医療安全」「災害看護」についてより専門的に学習する科目で、演習・実習も予定されています。また、「専門基礎分野」の中に、「医療倫理」「臨床薬理学」「人間関係論」を新たに設け、実践能力の高い看護師の育成を目指しています。

同窓生の コーナー

地域福祉学科八期生 藤井統子



私は、新見短大を卒業してから、新見市内の老人保健施設ですらんで働き、もう五年になりました。

就職当時は初めての仕事、新しい施設ということで、右も左もわからず迷いや不安がたくさんあり、日常生活の援助だけで精一杯だった私ですが、より良いユニットケアを造るため、利用者様によって居心地のよい介護を提供することを心がけてきました。その中で、先輩方や同僚、他職種のスタッフと共に一つになつて、様々なことを学び試行錯誤し実践してきました。今では少しずつ心の余裕ができ、利用者様が喜んで下さる姿を見ることで、「また明日も頑張ろう!」と意欲がでてきます。

私が生まれた故郷で中学生からの夢だった介護の仕事に携われることに感謝しています。これからもより多くの人々に恩返しができるよう努めていきたいと思っております。就職のサポートをしてくださった先生方、本当にありがとうございます。

「結婚しました」

幼児教育学科二十四期生 平田和弘
幼児教育学科二十三期生 平田(旧姓石川)佳香



幼児教育学科二十三期生、二十四期生のみなさん、お久しぶりです。お元気ですか？ 実は、昨年の九月に入籍、十二月に挙式、披露宴を行いました。挙式には夫婦共々総研でお世話になった安達先生もご出席してください。披露宴ではご祝辞も頂きました。ハブニング統子の披露宴でしたが、安達先生は私たちの結婚を大変喜んでくださいました。現在は広島市の公立幼稚園で働き、嫁は家庭を全力で守っています。ケンカをすることもありますが、二人で仲良く、とても幸せな毎日を過ごしています。そして、今年の冬には、我が家にもう一人、可愛い家族が仲間入りする予定です。

◆メール便り

地域福祉学科十一期生 押目和枝

新見短大を卒業し、仕事を始めて早一年が経ち、ようやく心に余裕ができました。私は現在グループホームで働いています。利用者の方々の距離が近いので個別ケアを大切にする必要があり、介護技術に加え、短大で学んできた利用者の方の生活歴というものも深く考えていかなければならないと改めて感じています。プライベートでは、趣味である絵画で個展を開催するため作品作りを力をつけています。九月三日〜三十日まで、真庭市三田の「カフェてあ」にて個展を開催する予定なので、よろしければ足を運んでみて下さい。



絵・八木幸美



絵・山本夕麻

◆地域看護学専攻科 「学生募集停止」のお知らせ

地域看護学専攻科長 福岡悦子
現在、二〇一〇年度の開設を目指して看護学科と地域看護学専攻科は四年制大学へ移行の準備を進めています。看護学科の入学学生が本専攻科に進学する二〇一二年度を持って学生募集停止となります。

したがって、本専攻科への受験可能年度は、二〇一〇年度、二〇一一年度、二〇一二年度の三年間のみとなります。本専攻科への受験を希望されております看護学科卒業生の皆様は、どうぞ早めにご検討いただきますようお願いいたします。

◆在籍者数

2009. 5. 1 現在

	看護学科	幼児教育学科	地域福祉学科	地域看護学専攻科	計
1年次生	64	54	55	16	189
2年次生	64	53	47	—	164
3年次生	63	—	—	—	63
計	191	107	102	16	416

◆出身都道府県別在学生数

2009. 5. 1 現在

府県	看護学科			幼児教育学科		地域福祉学科		地域看護学専攻科	合計
	1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年		
北海道			1			1			2
秋田県				1					1
埼玉県	1								1
神奈川県			1						1
富山県			2						2
福井県	1		1	3		1			6
長野県		1							1
愛知県								1	1
京都府		1			1	1	1	1	5
大阪府	2	1	1					1	5
兵庫県	20	21	16	12	9	8	5	5	96
奈良県	1								1
和歌山県		1	2	1		1			5
鳥取県	3	4	4	3		7	3	1	25
島根県	6	6	6	4	9	8	9		48
岡山県	9	9	10	5	10	13	17	2	75
うち新見市	②		⑦	①	④	⑨	⑧		③
広島県	4	5	3	3		5	3		23
山口県	2	1	2	5	4	3	1		18
徳島県			1	1	1		1	1	5
香川県	1	1		1	1	1			5
愛媛県	4	3	3	3	9	3	4	3	32
高知県	1	2		3	2		1		9
福岡県	1	1	3						5
佐賀県			1				1		2
長崎県	2		2	3	2	1	1	1	12
熊本県		1	1						2
大分県		2	1	1	3	2			9
宮崎県	1	2		1	1				5
鹿児島県	3	1		3	1				8
沖縄県	2	1	2	1					6
合計	64	64	63	54	53	55	47	16	416

「いんてんせき」
 〈退職・転入〉
 幼児教育学科講師 野原ひでの
 総務課課長兼四大化準備室長 福田 孝幸

〈新採用〉
 地域福祉学科教授 久保田トミ子
 看護学科講師 木下 照子
 看護学科講師 矢嶋 裕樹
 幼児教育学科助教 大久保淳子
 総務課主査 小寺 俊一



絵・山下真由子

〈昇格・異動〉
 幼児教育学科講師 渡部 昌史
 地域福祉学科助教 松永美輝恵
 四大化準備室長 神原 光
 理事兼事務局長 奥舎 達典

公開講座のお知らせ

平成二十一年度「新見公立短期大学公開講座」が学術交流センター(図書館)で行われます。全四回の予定は、六月十二日内藤一郎本学教授「腎臓の生物学」、六月二十六日難波正義本学学長「老化と癌」、十月十六日関勝旧新見藩十三代末裔「戦国時代の三傑と先祖の關係」、十月二十三日原田信之本学教授「新見市哲西町の四王寺と玄寶伝説」で、時間は各回とも十三時から十四時半です。聴講希望の方は短大務課に電話にて直接お申し込みください。



緑豊かな本学キャンパス内に設けられた「新見子育てカレッジ(交流広場)通称にこたん」は、本年度二年目を迎えました。一年間の利用者のはべ四八〇〇人を越え、お母さんとかわいい子どもたちの声が風につて、学内に響いてきます。交流広場では講義の一環として参加する幼児教育学科の一年生が、戸惑いながらも楽しそうに子どもと遊ぶ姿があります。ここには、ヨーロッパのネフ社(おもちゃ会社)のおもしろい積み木や素敵なキッチンセットなど、大人も楽しめる木のおもちゃが多数あります。ぜひ、のぞかれてみてはいかがでしょうか。先日、図書館では、七十代位の男性が「読みたい本が見つからない」と司書さんに熱心に相談される姿がありました。「公立大学法人」として二年目を迎えました。さらに地域に根ざした愛される学校として、今後も歩んでいきたいと思えます。(大久保)

編集委員

委員長

原田 信之
 金山 時恵
 松永 美輝恵
 大久保 淳子
 村田 二郎